# 題名関係流動性はどのように人々の　自尊心に影響するか

—

氏名　鈴木健太

指導教員　結城雅樹

自尊心は人間の行動や心理に密接に関わっている重要な要素だ。そして自尊心には文化差があり、関係流動性がそれを媒介することが分かっている(Thomson et al., 2018)。また自己高揚感の文化差の先行研究により、関係流動性と自己高揚感は評判システムと関わっていることが示唆された(Falk,Hein,Yuki&Takemura,2009)。本研究は、評判システムに着目し、自尊心の文化差において関係流動性と評判システムがどのような役割を担っているかを検討するものである。先行研究により、高関係流動性社会において自己高揚感が高いことは社会生態学的に適応的であることが示唆された。本研究はこの発見を足掛かりとし２つの仮説を立てた。1 つは、高関係流動性社会は成功者に対してポジティブなフィードバックを与えるポジティブ評判システムが優勢の社会のため自尊心を高く持つことが適応的であること。もう 1 つは、低関係流動性社会では自身が人より優れていることが人間関係の維持に悪影響を及ぼすため高い自尊心は適応的ではないというものだ。これを検証するため、それぞれの評判システムに対応する下位概念「出る杭信念」を設定した。次に日米の関係流動性、出る杭信念、自尊心に関して対応のない t 検定を行い日米差の確認をした。次に国を従属変数、自尊心を従属変数、関係流動性を媒介変数とした媒介分析を行い関係流動性が部分媒介をすることを検証した。続けて関係流動性と出る杭信念を媒介変数とするブートストラップ法を用いた媒介分析を行った。結果として、国と高関係流動性、出る杭信念成功賞賛、自尊心に関して間接効果が見られ、出る杭信念が関係流動性を更に媒介していることが分かった。一方で低関係流動性社会と自尊心の関係において出る杭信念成功罰は間接効果が見られなかった。これにより高流動性社会における 1 つ目の仮説が支持されたものの、低関係流動性社会における 2 つ目の仮説は支持されなかった。本研究により成功者にポジティブな反応をすると自尊心が高くなることが示唆された。一方で限界として低関係流動性社会での適応課題を積極的に検証すべきということが挙げられた。また出る杭信念が間接効果を持つ意味について深く掘り下げる必要があるだろう。